

やきもの展のご案内

LIXILギャラリーは株式会社LIXILの文化活動としてやきもの展を開催しています。タイルから茶碗まで、やきものは私たちの心豊かな暮らしを彩ります。「生活とアート」をコンセプトに、森 孝一氏(美術評論家・日本陶磁協会常任理事)をアドバイザーに迎えたセレクションです。

板橋廣美展 一重力内無重力一

会期:2018年11月6日(火)~2019年1月15日(火)

会場:LIXILギャラリー



「梯子」(上) W120xD190xH1620mm

「寂」(下) W1300xD2500xH230mm(全体)
W340xD220xH230mmx18 (個)

| 本リリースに関するお問い合わせ先 |

LIXIL ギャラリー (<http://www.livingculture.lixil/gallery/>)

所在地: 東京都中央区京橋 3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL : GINZA 2F

担当: 大橋恵美 田村志保

TEL : 03-5250-6530 Email : xbn@lixil.com



LIXIL ギャラリーでは2018年11月6日(火)～2019年1月15日(火)の期間、

「板橋廣美展 一重力内無重力一」を開催します。

「重力内無重力」とは板橋氏独自の造形技法をしめす言葉です。釉薬をシャモット(粘土を焼成して粉碎したもの)の中に埋めて焼成すると、宙空で造形するような作品になり、危うさを孕んだ存在感を放ちます。また板橋氏は水をかたどった楕円形や円形の白磁のオブジェ作品にも定評があります。今展ではシャモットによるインスタレーション「寂」と、内部の空気を感じさせるゆるやかな曲線の白磁のオブジェなど約20点を展示する予定です。



「界」W125xD60xH120mm

開催概要 | 板橋廣美展 一重力内無重力一

会 期 2018年11月6日(火)～2019年1月15日(火)

休 館 日 水曜日、2018年11月25日(日)、
2018年12月28日(金)～2019年1月4日(金)

開館時間 10:00～18:00

企画制作 株式会社LIXIL

会 場 LIXIL ギャラリー

入 場 料 無料

詳 細 <http://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g3-1811/>

関連企画 | アーティスト・トーク

本展のアドバイザーである森孝一氏が、板橋廣美氏へインタビュー形式でトークを行います。

開催日時 2018年11月10日(土) 18:00～18:30

会 場 LIXIL ギャラリー

| 展覧会の見どころ |

板橋廣美氏は、社会人になってから岐阜の陶芸家伊藤慶二の作品に出会い、陶芸技法による造形作品をつくるようになります。また、陶芸家鯉江良二の作品から「やきものとは、焼いて残るもの」ということを学び、「土を焼き固めるだけでなく、作品としての完成にたどり着くまでの段取りやシステム、そういうプロセスがやきものの醍醐味である」と考え、「新しい作り方をすると必ず新しいものが生まれる」と今日も挑戦を続けています。板橋氏は造形のみならず技法においても幅広い作品を制作していますが、大よそ二つの要素によって創作は展開されています。それが今展でも展示される、「白磁」と「シャモット」による作品です。二つの相反する材料は黒と白の色のように、互いを強調しています。いずれも既成概念にとらわれない自由さを持ちながら、存在の根源を問う、やきものの本質を表現した作品です。

作者略歴 | 板橋廣美 (ITABASHI Hiromi)

- 1948 東京都三鷹市に生まれる
 1971 日本大学法学部卒業
 1976 日本陶磁器デザインコンペティション・優秀賞 (日本陶磁器デザイン協会)
 1977 多治見市陶磁器意匠研究所修了、朝日陶芸展・77 朝日陶芸賞 (朝日新聞社)
 1978 陶芸家・伊藤慶二氏に師事
 1979 岐阜県陶磁器デザイン総合展・奨励賞 (岐阜)
 1983 朝日陶芸展・83 朝日陶芸賞 (朝日新聞社主催)
 1984 中日国際陶芸展・84 大賞 (中日新聞社主催)
 1985 中日国際陶芸展・特賞 (中日新聞社主催)
 1988 セラミックアネックスシガラキ 88 滋賀県立近代美術館 (滋賀)
 朝日現代クラフト展招待出品 92 (朝日新聞社主催)
 現代日本クラフトデザイン展 (アメリカ・ベリンガム)
 1989 国際陶磁器美濃・デザイン部門・銀賞 (岐阜・多治見)
 1991 47 ファエンツァ国際陶芸展買い上げ賞 (イタリア)
 1993 UTSUWA 埼玉県近代美術館 (埼玉)
 1995 金沢工芸大賞コンペティション招待 (金沢)
 1996 WINDS 板橋廣美陶芸研究所開設 (東京)、「現代陶芸の若き旗手たち」愛知県陶磁美術館 (愛知)、「磁器の表現 1990 年代の展開」東京国立近代美術館工芸館 (東京)、「女はどう表現されてきたか」岡山県立美術館 (岡山)
 1997 出石磁器トリエンナーレ・97 大賞 (兵庫・出石)
 「ソウル セラミックアートビエンナーレ」ソウル市立美術館 (韓国)
 2000 NHK「やきもの探訪」放映 BS2、「陶芸の路」陶芸展招待出品 (デンマーク)
 2001 「現代陶芸の精鋭 21 世紀を開くやきもの手法と形」茨城県立陶芸美術館 (茨城)、大韓民国ワールドセラミックエキスポジション (韓国・ソウル)
 2002 「現代陶芸の 100 年展」岐阜県現代陶芸美術館 (岐阜・多治見)
 2003~2009 第 17 回、第 18 回、第 20 回日本陶芸展招待出品 (毎日新聞社主催)
 2003 アベラネーダセラミックシンポジウム招待 (アルゼンチン)
 「工芸の現在 アメリカ・ヨーロッパ・アジア・21 人展」 (金沢)
 2004 「かたちを切る—日本の現代陶芸」岐阜県現代陶芸美術館 (岐阜・多治見)
 2005 レジデンス バロリス AIR (フランス)
 「アナザーストーリー」金沢 21 世紀美術館 (石川)
 2006 「日本陶芸 100 年の精華」茨城県立陶芸美術館 (茨城)
 「陶芸の現在、そして未来へ Ceramic NOW+」兵庫陶芸美術館 (兵庫)
 2007 アートビオトープ「森の精霊たち」二期倶楽部 (栃木・那須)
 2008 金沢市工芸展優秀賞 (石川)
 2009 金沢市工芸展世界工芸都市宣言賞 (石川)
 2010 第一回 金沢・世界工芸トリエンナーレ、金沢 21 世紀美術館 (石川)
 2011 工芸アートフェア、東京国際フォーラム (東京)、「磁器展」樂翠亭美術館 (富山)、「日本×ファエンツァ やきものの現在」イタリア文化会館 (東京)
 2012~2013 マーラ国立工科大学外部卒業審査員・ワークショップ (マレーシア)
 2014 「現代・陶芸現象」茨城県陶芸美術館 (茨城)
 2016 国立台南芸術大学 レクチャー・ワークショップ (台湾)、ミルオトキクカタチ vol.3 板橋廣美「白磁の世界」石川県立音楽堂 (石川)、「方法の発露 2016 —地域性と個人性—」しいのき迎賓館 (石川)
 2017 金沢市別所町に WINDS CERAMIC STUDIO を開設 (石川)
 2018 伊藤慶二・板橋廣美展 二人展 (ギャラリー数寄/愛知・江南)



LIXIL は、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTURE を表現していきます。LIXIL は、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。